

GUIDEBOOK

The Hokkaido University Museum

MUSEUM
MEISTER

Museum Meister

北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内 2024年度



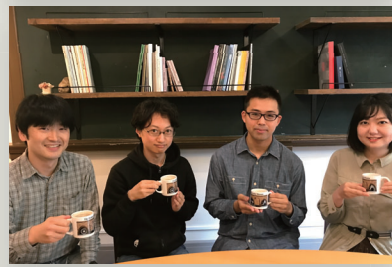
MUSEUM MEISTER
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

www.museum.hokudai.ac.jp



INDEX

- 01 多様に専門化された時代にこそ求められるミュージアムマイスター
- 02 ミュージアムマイスター認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集「マイスターに聞いてみよう！」
- 08 登録申し込みについて



多様に専門化された時代にこそ求められる ミュージアムマイスター

MUSEUM M E I S T E R



皆さんは、北海道大学の学生として、専門分野について深く学ぶことを目指し、旺盛な好奇心を持ち、努力を積み重ねながら日々を送っていることと思います。総合大学である本学では、様々な分野の先進的な研究・教育が行われており、次世代を担う皆さんの期待にこたえる専門教育の場ができています。

一方で、北海道大学が、建学以来掲げてきた理念のひとつに「全人教育」があります。総合博物館は、学科や学部の垣根を超えて、広い分野を学ぶことができる本学の恵まれた環境を最大限に活かした「全人教育」を実践したいと考えました。「博物館を舞台とした体験型教育」課程を設定し、広い分野の知識を講義や実習で習得するだけでなく、博物館が主宰する課外演習や活動を通じて実践的に学ぶコースとしてつくられたのが、「ミュージアムマイスター」認定コースです。

本コースでは、一定水準をクリアした学生を「ミュージアムマイスター」として認定します。しかし、平成21年度から始まったこのプログラムで誕生したマイスターはまだ55名です。これは、この称号

がいかに選りすぐられた人材に与えられるものであるかを示しています。本コースで我々が重視するのは、単に知識だけではなく、現代社会において必要とされる「社会貢献のための高い見識と情熱」、「人間社会の持続的発展のために貢献できる知恵」を持つ人材の育成なのです。これは、まさに、北海道大学が目指す「全人教育」の完成形であるといえるでしょう。皆さんもマイスターを目指して、より充実した学生生活を過ごしてみませんか。

2024年4月

総合博物館長
坪田 敏男



ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。北海道大学の全学部・全大学院の学生が受講可能です。

●受講方法

下記の通り科目種別(A~D)の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

A 全学教育科目 (総合科目、一般教育演習、主題別科目)

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B 学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。(履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。)

C 大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。(マイスターコースのクレジットは取得できませんが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。)

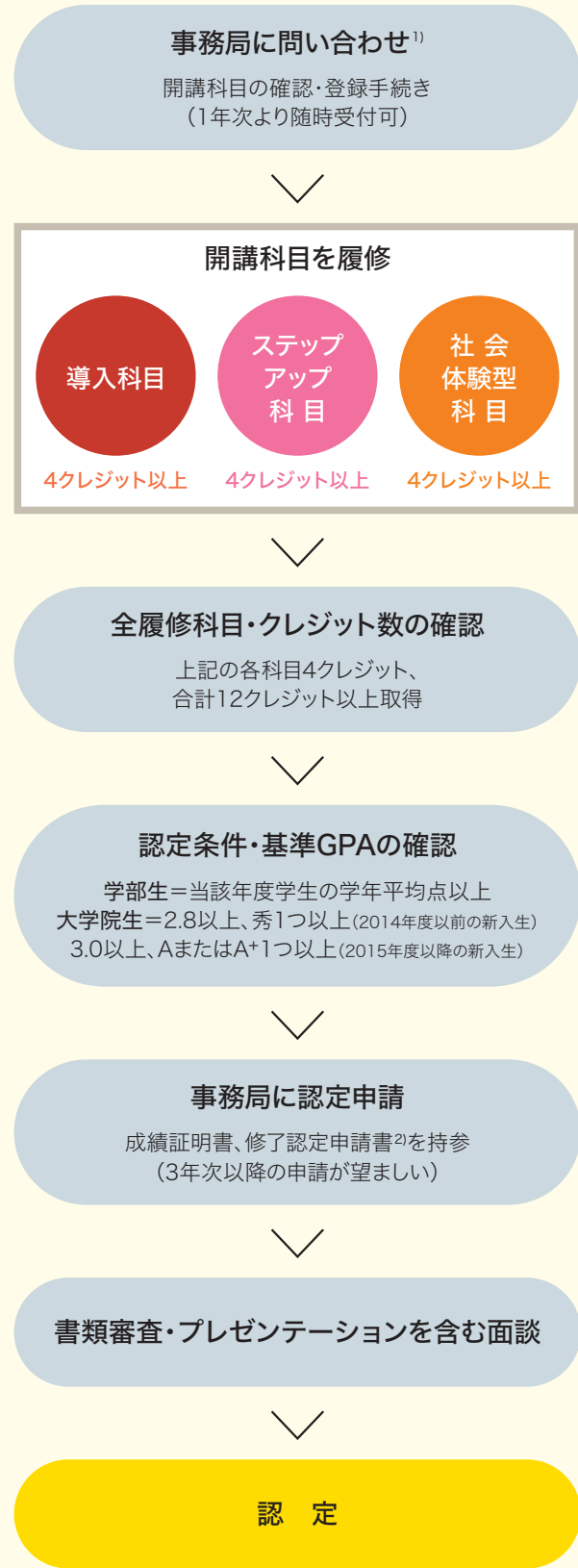
D オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムであるため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで随時行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

◎クレジットについて

クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」で必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

●認定までの流れ



- 1) 博士課程から登録希望する場合は、クレジット取得計画書の提出を求める場合があります。
- 2) 修了認定申請書は「ミュージアムマイスター 修了認定申請書」で検索、もしくはミュージアムマイスター事務局までお越しください。

開講科目一覧

●下記の科目情報は令和6年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時間についてはシラバスや各掲示版も必ず確認してください。

科目種別	授業名	開講時期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 生物の多様性	1	水曜(5)	柁原 宏	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	1	木曜(5)	阿部 剛史	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] フィールド科学への招待	1	金曜(5)	四ツ倉 典滋	2
A 全学教育科目(総合科目)	[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	2	木曜(5)	山崎 幸治	2
B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1	火曜(5)	今村 信隆	2
B 文学部専門科目	博物館概論	1	水曜(1)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1	水曜(5)	久井 貴世	2
B 文学部専門科目	博物館教育論	1	木曜(1)	今村 信隆	2
B 文学部専門科目	博物館資料論	1	金曜(5)	久井 貴世	2
B 文学部専門科目	博物館経営論	2	火曜(5)	卓 彦伶	2
B 文学部専門科目	博物館展示論	2	金曜(5)	山崎 幸治	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	1	月曜(5)	吉崎 元章	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] PMFの響き	1	木曜(5)	三浦 洋	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 札幌と音楽文化	2	木曜(5)	三浦 洋	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]	1	集中	中村 剛	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]	2	集中	中村 剛	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	International Archaeological Field School in Rebus Island	1	集中	加藤 博文	2
B 水産学部専門科目	魚類学	春	月曜(1) 水曜(2)	今村 央	2
B 水産学部専門科目	水圏生物学	春	火曜(3~4)	河合 俊郎	2
B 水産学部専門科目	水族館学	春	木曜(3~4)	田城 文人	2
B 水産学部専門科目	魚病学	夏	火曜(1) 金曜(3)	笠井 久会	2
B 文学部専門科目	芸術学: 芸術論の歴史 2024	1	水曜(4)	今村 信隆	2
C 文学院専門科目	博物館・文化財研究特殊講義: 博物館と市民・地域社会 2024	1	火曜(4)	佐々木 亨	2
C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義 I: 学術標本・資料学	秋・冬	金曜(5)	首藤 光太郎	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	パラタクソノミスト養成講座	—	随時*	—	0.5~1
A 全学教育科目(一般教育演習)	海や水産の研究を学ぶグループワーク	2	木曜(3)	大木 淳之	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(ミュージアムグッズの開発と評価)	2	木曜(2)	北野 一平	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価	秋・冬	木曜(2)	北野 一平	2
C 水産科学院専門科目	水産科学特別実習 I 研究内容・周辺領域を紹介する教材を開発する実習	1	集中	大木 淳之	1
C 水産科学院専門科目	水産科学特別実習 II 研究内容・周辺領域を紹介する教材を開発する実習	2	集中	大木 淳之	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	学生参加プロジェクト(展示制作、展示解説など)	—	随時*	湯浅 万紀子	1~2
D 総合博物館・オフカリキュラム	卒論ポスター発表会(発表、運営)	—	12月~ 3月上旬(随時)	湯浅 万紀子	2

導入科目

ステップアップ科目

社会体験型科目

※ 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] 「モノ」「コト」「ヒト」=北大総合博物館
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在

文学部専門科目

- ・博物館資料保存論
- ・博物館概論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館展示論

ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。博物館の活動と運営について理解を深める科目。



授業紹介

●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということ学習します。また、水族館で実際に行っている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。

本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講師を担当します。今年度は鴨川シーワールド国際海洋生物研究所の荒井一利氏、沖縄美ら島財団(美ら海水族館)の佐藤圭一氏、おたる水族館の三宅教平氏、しものせき水族館海響館の萩本啓介氏を予定しています。

水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたとないチャンスです。



●博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

「博物館学特別講義Ⅰ」では各専門分野における標本・資料の意味、取り扱い方を理解します。具体的には、標本・資料の採取・収集法、保管法、利活用の技法、データ整理・公開法などについての知識や考え方を習得します。各分野の教員が週替りで講義をするオムニバス形式の授業で、自然史系として1)海藻、2)陸上植物、3)昆虫、4)昆虫データベース、5)魚類、6)哺乳類・鳥類、7)古生物、8)分子系統進化を、文化史系として9)考古学、10)動物考古学、11)言語学、12)民族学、13)標本史、14)映像・科学技術史を取り扱います。

学芸員資格のアドバンスコースとして位置付けていますが、同時に自然史・文化史を対象とした各研究分野への理解を深め、文理を融合した広い視野を持った教養人としての資質も身につけます。



社会体験型科目

学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換する。



全学教育科目(一般演習科目)

- ・海や水産の研究を学ぶグループワーク

理学院専門科目

- ・博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)

大学院共通授業科目

- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価

水産科学院専門科目

- ・水産科学特別実習Ⅰ: 研究内容・周辺領域を紹介する教材を開発する実習
- ・水産科学特別実習Ⅱ: 研究内容・周辺領域を紹介する教材を開発する実習

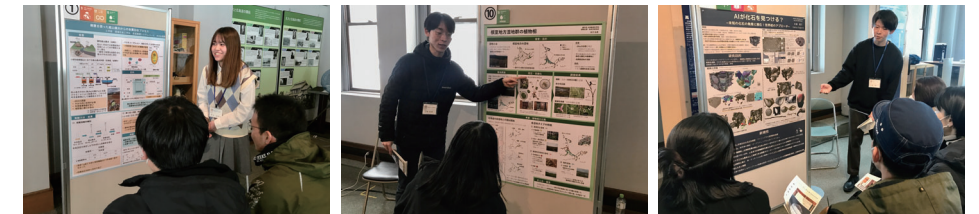
総合博物館・オフカリキュラム

- ・学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)
- ・卒論ポスター発表会 (発表、運営)

授業紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部の4年生が、大学での研究の成果を大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを制作し、わかりやすく説明することが求められます。中間発表会を複数回行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎自身の研究に興味を持っていただけるか、多くの人の前で話せるだろうかという不安は、中間発表を重ねて薄れていき、更に発表会当日に相槌を打ちながら聞いてくださる来場者の表情を見た際に払拭されました。同時に、研究内容を最大限伝えたいという思いが強まり、来場者をより意識して説明できるようになりました。自身の成長を短時間で感じたのは初めてです。発表会は、学生だけでなく来場者にとっても学びの場・知的好奇心が刺激される機会となり、教育機関としての大学と博物館の役割を十二分に果たしていると感じました。

◎市民や他分野の研究者など普段あまり接することのない方々に、私の研究をいかに理解していただけるか、あるいはその成果を面白いと思っていただけるかについて、内容はもちろんのことポスターのレイアウトや発表の際の話し方に至るまで、多くの点について先生方や運営スタッフ、また発表者仲間からご指導いただき、改善しました。その過程で、自分一人で行うだけでは得られない様々な気づきを得られたことは、大きな収穫でした。発表を聴いた方々からの「面白い」の言葉は、何よりも嬉しかったです。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト: 企画展展示解説/卒論ポスター発表会の運営 他多数



受講者の声

夏季企画展の展示解説

◎担当した当初は覚えた解説をするのに精一杯でしたが、次第に自然に解説できるようになり、来館者の反応を見る余裕が生まれました。初めは1パターンしかなかった解説も、来館者の様子や年代によって解説の長さや言葉遣いを変えることができるようになり、自身の成長を感じました。自分の解説によって展示を理解・納得してくれる来館者がいることで、解説員の必要性も実感しました。初対面の来館者とコミュニケーションをとった経験を活かし、これからも様々な人と関わっていきたくです。

卒論ポスター発表会の運営

◎卒論ポスター発表会は大学と地域社会との橋渡しの場であり、総合博物館をますます魅力的に映します。発表者は、4年間の集大成ともいえる卒業研究を伝えるとあって、その口ぶりに熱が込められる。それに呼応するように、来場者は次々と疑問を投げかける。さらに発表者は思考を深化させ、発表を洗練していく。また来場者は研究に触れ、知的好奇心が刺激される。発表会に運営スタッフとして携わり、大学と地域社会との知的交流のために少しでも貢献できていたのなら、これほど嬉しいことはありません。

マイスターに聞いてみよう!

新マイスターからのmessage

ミュージアムマイスター認定コースでは、
これまでに55名のマイスターが誕生しています。
2022年度・2023年度にマイスターに認定された5名の学生に、
受講のきっかけ、印象に残っている授業やプロジェクト、
マイスターコースの魅力、在校生の皆さんへのメッセージを
語っていただきました。
コースで培った経験を活かし、博物館内外の様々な場で
活躍しているマイスターたちの声を聞いてみましょう。



message 2

元々博物館が好きだった私は、入学時に配布されたこのガイドブックを読み、ミュージアムマイスター認定コースを受講しようと決めました。本コースでは、学術標本の同定や企画展の解説などを通して、博物館のいまを実践的に学べます。多様な講義の中でも「学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価」という授業は特に印象に残っています。当時はコロナ禍で外出が制限され、博物館を訪れる機会が大きく減っていました。そのような状況で学生の視点から北大総合博物館の魅力を伝えるために制作した紹介動画が1,000回再生を迎えた瞬間には、市民と学問を線で結べた感覚があり、感慨深かったです。専攻に留まらないこうした博物館での学びは、私の思考の引き出しを大きく増やしてくれました。あなたが北大生ならではの経験をしたいと思うならば、ぜひ受講をお勧めします。

高橋 佑希

2022年度
文学部4年次に
マイスターに認定

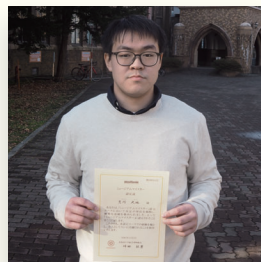


message 1

ミュージアムマイスター認定コースの中で「企画展の展示解説」という貴重な体験ができることを知り、受講を決めました。「藻類の時間軸」展で展示解説をする立場として様々な背景を持つ来場者と出会い、一方的な解説ではなく対話して交流できたことは、私にとって良い刺激となりました。そして、水産科学的な博物館の意義として、水生生物の標本を適切に保管し、種の特徴を明確にして、資源管理に役立てることが挙げられます。幅広く領域横断的な学びが特徴の本コースではありますが、水産科学を専門とする私にとって、本コースで経験した藻類の展示解説や、水生生物の分類学等を学ぶステップアップ科目の履修を通じ、私たちの研究基盤を構築している現場で必要とされる知識を学べたのは、大きな財産となりました。ぜひ皆さんも受講してみてください。

佐々木 健太

2022年度
水産学部3年次に
マイスターに認定

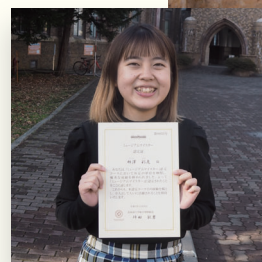


message 4

ミュージアムマイスター認定コースは学芸員養成課程の科目と一部重複している授業はあるものの、卒論ポスター発表会や各種企画展などの運営・解説を担当できるという点で、博物館という現場を体験するにとっても有意義な活動であると思います。私は、2年連続して卒論ポスター発表会の運営に取り組みました。主に会場配置を担当し、それまで来館者として展示の内容に意識を向けがちであったのが、見やすさを考慮したポスターの位置、それに伴う座席の配置と照明の当て方など、会場全体を俯瞰する大きな視点を持つに至りました。教職員の方々に助言をいただきつつ、同世代の運営スタッフと様々なことについて話し合いながら対応できることもとても楽しく、魅力的であると思います。ぜひ座学が中心となる授業で満足せず、コースの様々なプロジェクトに積極的にチャレンジしてほしいと思います。

荒川 大地

2023年度
理学部 3年次に
マイスターに認定

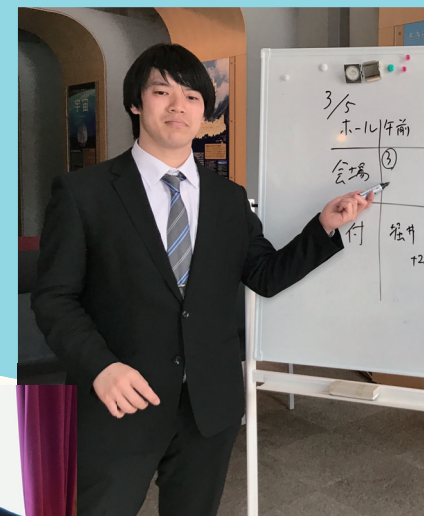


message 3

日本の研究力を向上させるために、小・中学時代からの理系人材の育成が今求められています。私はより多くの児童生徒に理系に興味を持ってもらうためには、博物館を学校教育に活用することは非常に重要だと考えています。そこで、博物館と学校教育の結びつきを強くするには、博物館の魅力や運営方法について知った上で、児童生徒を含めた市民に親しみ深く、かつ来場者の学びとなるような博物館作りについて学びたいと考え、ミュージアムマイスター認定コースの受講を決めました。
卒論ポスター発表会の運営の一環として発表者の中間発表に参加し、来場者の学びを意識して質問や意見交換を行いました。その時に考え学んだ、市民の学びになる伝え方を活かし、今は国の教育施策を考える仕事をしています。博物館のことをより深く知ることができるだけでなく、様々な視点から考えることを学べるこのコースの受講を強く勧めたく思います。

堀井 元章

2022年度
総合化学院 修士課程2年次に
マイスターに認定



message 5

“ミュージアムマイスター”なんて素敵な称号なのだろう。
学部2年時に参加した夏季企画展「藻類の時間軸」で本コースの存在を知り、今後何かの名人になれる機会は早々にないだろうと安直な気持ちで受講を決めました。最も印象に残っている活動は先に述べた企画展での解説員です。来場者としては幾度となく訪れていた博物館も、発信する立場になると全く別の場所のように感じました。初めは、展示物への印象を左右する立場に緊張し、一辺倒な説明ばかりしていました。回を重ねるに連れ、来場者の方のバックグラウンドを尋ねながら寄り添う形で解説ができるようになり、終わった後の達成感は大変大きかったです。実は私自身、大学在籍中に写真の個展を開催しました。解説員経験から培った実践的な知識や心構えが、不安で押しつぶされそうだったこの挑戦を後押ししてくれたと感じています。
認定コースを受講していくほど、ミュージアムというものの奥深さに気付かされました。マイスターという称号以上のものが得られたと実感しています。本コースはきっと皆さんの興味を引き出しを増やし、奥行きを持たせてくれるはずです。ぜひ飛び込んでみてください。

柿澤 彩花

2023年度
工学部 4年次に
マイスターに認定

登録申し込み について

北大総合博物館のウェブサイト
(<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/>)
からダウンロードし、以下の記入例を参考にして、
必要事項を記入してください。

※注意事項

黒のボールペンではっきりと記入してください。
書き間違い、記入漏れ等がないか、もう一度しっかりと見直してください。

科目名の左側の欄に、該当する
マークを記入してください。
該当する科目がない場合には、
未記入でも構いません。

既に履修した科目=○
現在履修している科目=○

メールアドレスには、PCメール
のアドレスを記入してください。
メールアドレスは、ハイフン、アン
ダーバー、ドット等をはっきりと
記入してください。



ミュージアムマイスター認定コース 登録申込書

ミュージアムマイスター事務局 行 整理番号 _____

私は、ミュージアムマイスター認定コースに下記の通り登録を申し込みます。

フリガナ <u>ホクダイ タロウ</u>	申し込み年月日 <u>2024年 4月 20日</u>
氏名 <u>北大太郎</u>	生年月日 西暦 <u>2004年 12月 1日</u>
〒 <u>060-0810</u> フリガナ <u>サッポロシキタク</u>	性別 <input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女
連絡先住所 <u>札幌市北区</u>	学部・学年 <input type="radio"/> 学部 <input type="radio"/> 年
<u>北10条西8丁目 北海道大学</u>	学生番号 <u>00000000</u>
	電話番号 <u>011-706-4704</u>
	Eメールアドレス <u>taro@museum.hokudai.ac.jp</u>

履修科目について リーフレットを参考に履修科目の左側の欄に、該当するマークを記入してください。
既に履修した科目=○ 現在履修している科目=○

導入科目	ステップアップ科目	社会体験型科目
<input type="checkbox"/> [環境と人間] 生物の多様性	<input type="checkbox"/> [芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	<input type="checkbox"/> 海や水産の研究を学ぶグループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> [環境と人間] 「モノ」「コト」「ヒト」=北大総合博物館	<input type="checkbox"/> [芸術と文学] PMFの書き	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
<input type="checkbox"/> [環境と人間] フィールド科学への招待	<input type="checkbox"/> [芸術と文学] 札幌と音楽文化	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 II ミュージアムグッズの開発と評価
<input type="checkbox"/> [人間と文化] アイズ-先住民研究の現在	<input type="checkbox"/> フィールド体験型プログラム-人間と環境科学-I	<input type="checkbox"/> 水産科学特別実習 I-研究内容・周辺領域を紹介する 教材を開発する実習
<input type="checkbox"/> 博物館資料保存論	<input type="checkbox"/> フィールド体験型プログラム-人間と環境科学-II	<input type="checkbox"/> 水産科学特別実習 II-研究内容・周辺領域を紹介する 教材を開発する実習
<input type="checkbox"/> 博物館概論	<input type="checkbox"/> International Archaeological Field School in Rebun Island	<input type="checkbox"/> 学生参加プロジェクト(展示制作、展示解説など)
<input type="checkbox"/> 博物館情報・メディア論	<input type="checkbox"/> 魚類学	<input checked="" type="checkbox"/> 卒論ポスター発表会(発表、審査)
<input type="checkbox"/> 博物館教育論	<input type="checkbox"/> 水圏生物学	
<input type="checkbox"/> 博物館資料論	<input type="checkbox"/> 水族館学	
<input type="checkbox"/> 博物館経営論	<input type="checkbox"/> 魚病学	
<input type="checkbox"/> 博物館展示論	<input type="checkbox"/> 芸術学: 芸術論の歴史 2024	
	<input type="checkbox"/> 博物館:文化財研究特殊講義: 博物館と市民・地域社会 2024	
	<input type="checkbox"/> 博物館学特別講義 I: 学術標本-資料学	
	<input checked="" type="checkbox"/> パラタクソミスト養成講座	

システム管理者記入欄 承認年月日 西暦 年 月 日 登録番号 _____



北海道大学総合博物館
ミュージアムマイスター事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学総合博物館2階 研究支援推進員室
E-mail: suishin@museum.hokudai.ac.jp
TEL & FAX: 011-706-4704 内線(4704)
開室日時: 火~金 10:00~16:00

必要事項を記入した登録申込書を持参のうえ、
ミュージアムマイスター事務局に提出し、登録手続きを行ってください。